

畑クラブ 報告2017. 3. 25.

1軒の要請があり5人で参加しました。晃郎さんの畑でキャベツの後片付け、初めての作業。キャベツの外見はフツウなんですけど、中は“葉”の間がすかさずかして、もう花をつける臺がたちはじめようとしていました。持つと軽いんです。結局このキャベツもみんなに食べてもらうことなく…。種蒔き・定植が遅れたり、その年の気候状況とがうまく合わない、ちゃんと育てないということです。もちろん全部ではないにしても食べられる。

動物園のエサに使ってもらえたらいいよねえ、農薬かかってないし、喜んで食べるだろうな～なんて話しながら作業をしました。抜いたキャベツの中には、根に近い部分が白くなった菌核病という、病気の物も。病気の菌を畑に残さないように、作物をすきこんだりせず、全部畑から取り除くのだそうです。病気のキャベツは水分が少なくすかさずかしておいしくないとか。



回してひっぱると抜けますが、しっかり根を張っていて抜くのが大変！

これは わけぎ



キャベツの根元を知っていますか？太い茎がありますが、根は太い主根があるタイプではないのがわかります。菌核病のキャベツは、この部分が白くなっているのがわかります。



晃郎さんと畑クラブメンバー

キャベツを縦に切ってみると、花をつけようと薹が立ち始めていて、キャベツの巻きが緩くなっているのがわかります。放っておくとアブラナ科なので黄色い花が咲きます。話は超！飛びますが、もし近くに遺伝子組み換えのナタネが自生していて、お互いに花を咲かせていたら、近縁種のキャベツに、組み換えナタネの花粉がついて、遺伝子組み換えのキャベツになることも可能性としてはあります。



★神戸港は食用油の原料の輸入ナタネ陸揚げ量が全国でだいたい1位。輸入ナタネはほとんど遺伝子組み換えです。陸揚げの際にこぼれ落ちが起きて、実際神戸港辺では組み換えナタネが自生しているんですよ。生活クラブ都市生活では、毎春組み換え自生ナタネが生えていないか調査しています。機関紙の企画のお知らせでご存じの人も多いかと思いますが、今年は久しぶりに4/8「ナタネハイク」を行い、伊川谷駅から愛菜会の畑をめざし、ナタネを探しながら歩きます。

すごくきれいになっちゃった！



オマケ キャベツの横に作られていた わけぎ。種まきが半月程遅くなったとかで、分けつ（根元からいくつにも茎が枝分かれすること）が進まず、葉が太くなっています。これも出荷はできないそうです。



畑の近くに桃の木？幹を見たら桜でした。来週見頃かな (^_^)

